

胃透視検査をお受けになる方へ

胃透視検査の目的

上部消化管（主に胃）についての診断を目的にしています。

胃透視検査の流れと方法

検査前日：飲食は、午後10時ごろまでに軽く消化のよい食事を済ませてください。

検査当日：検査終了まで飲食、タバコはお控えください。

（喫煙は胃粘液が増え、評価困難になることがあります。）

薬：毎朝飲んでいる血圧及び心臓、喘息、精神科の薬は、朝7時までに水少量（100mlまで）でお飲みください。その他の薬に関しては、主治医の指示に従ってください。

糖尿病治療中の方は、健診当日の朝血糖に関する薬は中止してください。

インスリン使用の方は、主治医の指示に従ってください。

（低血糖を起こしやすい方は、あめ、ブドウ糖をお持ちください。）

検査所要時間：15分前後ですが、胃の形状が複雑な方は時間がかかることがあります。

検査前体調確認：看護師が体調・ご病気等について問診します。体調がすぐれなかつたり、ご病気のある方は看護師にお伝え下さい。体調によって、安全に検査が実施できない可能性がある場合は、検査ができない場合があります。

検査法：バリウムと発泡剤を口から飲み、検査台を倒したり立てたりしながら、検査台の上で体を動かしていただき、胃の観察をします。

胃を膨らませて検査をしますので、検査中お腹が張ることがあります。胃が急に膨らむことで、気分不快は腹痛を感じる時があります。途中で気分不快等があれば、検査中断の必要が必要なため、検査者にすぐお伝えください。

検査中に、体調不良、転倒・転落の危険性があると判断した場合、検査を中止することがあります。

検査後：バリウムを早く体外に出すために、下剤を飲んでいただきます。検査が終了したらすぐに、多めの水でお飲みください。

下剤の効果は、個人差がありますが、おおよそ午後～夕方になります。

午後に他の検査が予定されている場合は、すべての検査が終了してから内服してください。

帰宅時に追加下剤をお渡しします。

帰宅後：白い便（バリウム便）は、2～5日かけて排泄されます。（個人差があります）便意を感じなくても定期的にトイレへ行き、排便を促してください。

食事：通常通り摂っていただいてかまいませんが、飲酒は控えましょう。

飲酒：飲酒により脱水に近い状態になると、便が硬くなり排便が難しくなります。

検査後バリウム便が出るまでは、飲酒は控えてください。

水分：通常の便に戻るまでは、排便の状況を確認し、普段より多めの水分を摂るようにしてください。

* 注意：バリウムは、通常下剤を服用後、当日か翌日には排出されますが、2～3日後でも白い便（バリウム便）が出ない、便秘が続く、吐き気・嘔吐・腹痛・腹部の張りなどの症状が現れた場合は、健診センターにご連絡いただくか、お近くの医療機関を受診してください。

合併症：まれに誤嚥、便秘、消化管閉塞、消化管穿孔、過敏症（バリウム、胃の動きを抑えるお薬）などの合併症がみられます。検査中に合併症が認められた場合は検査を中止します。また合併症によっては処置が必要になったり、入院をおすすめすることがあります。

以下の方は、胃透視検査をお受けすることができません。

- ・妊娠中、あるいは妊娠の可能性のある方
- ・普段、食事や水分摂取でむせる方、過去に誤嚥をしたことがある方（バリウムを含む）
- ・腸閉塞と診断されたことのある方
- ・便秘のひどい方
- ・1年以内に腹部の手術を受けた方
- ・80歳以上の方
- ・バリウムアレルギーの方
- ・ドック当日咳が出る方、吐き気のある方、その他極度の高血圧等、体調不良のある方
- ・ペースメーカー（ICD等を含む）装着の方は、機種によっては検査が受けられません。機種確認のため、ペースメーカー手帳をお持ちください。
- ・大腸憩室があり、出血や憩室炎を起こしたことのある方
- ・メニエル病等でめまいがでやすい方
- ・麻痺や体に疼痛があり、体制が保てない、スムーズな体位変換ができない方、握力のない方・
- ・健診当日血圧 180/100mmHg 以上の方

以下の方は検査をお控え頂くか、主治医に検査を受けられるかご確認下さい。

- ・検査時体を動かしたり、台を傾けるため、体位変換によってめまいが出やすい方、怪我や麻痺によって体を支えることが困難な方は転倒の危険性があるため、検査はお控えください。
(整形外科の疾患、神経疾患、筋力低下した方を含む)
- ・ペースメーカー装着の方は、機種によっては検査が受けられません。機種確認のため、ペースメーカー手帳をお持ちください。
- ・腎臓や心臓が悪く、水分制限がある方は主治医の許可がなければ検査をお受けできません。
- ・過去に胃の手術を受けている方（バリウムが胃に溜め込めず、いい画像がとれない可能性があります）
- ・インスリン持続注入ポンプ・血糖持続測定器は、はずさなければ検査は受けられません。
- ・便秘気味の方

■検査には万全な注意を払い、少しでも苦痛が少なく、より安全に検査できるよう努力いたします。検査を受けられる皆様が、この検査の意味とそれによって得られる診断上の利益、及び稀ではありますが生じうる合併症についてよくご理解頂きたいと思います。